

# 学校法人 昭和学院 平成19年度決算報告

平成19年4月1日～平成20年3月31日

## [資金収支計算書]

(単位:百万円)

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費支出	2,150	学生生徒等納付金収入	1,835
教育研究経費支出	393	手数料収入	87
管理経費支出	173	寄付金収入	12
借入金等返済支出	0	補助金収入	930
施設関係支出	4,275	資産運用収入	115
設備関係支出	51	資産売却収入	1,666
資産運用支出	1	事業収入	23
その他の支出	995	雑収入	227
		前受金収入	360
		その他の収入	1,390
資金支出調整勘定	347	資金収入調整勘定	545
次年度繰越支払資金	7,080	前年度繰越支払資金	8,671
支出の部合計	14,771	収入の部合計	14,771

## [消費収支計算書]

(単位:百万円)

消費支出の部		消費収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費	2,150	学生生徒等納付金収入	1,835
教育研究経費	1,178	手数料	87
管理経費	261	寄付金	13
資産処分差額	104	補助金	930
		資産運用収入	116
		事業収入	23
		雑収入	227
		その他の収入	37
		帰属収入合計	3,268
		基本金組入額合計	3,307
消費支出の部合計	3,693	消費収入の部合計	39
当年度消費支出超過額	3,732		

## [貸借対照表]

(単位:百万円)

資産の部		負債、基本金、消費収支差額の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	25,376	固定負債	5
流動資産	7,330	流動負債	842
		基本金	20,322
		消費収支差額	11,537
資産の部合計	32,706	負債、基本金、消費収支差額の部合計	32,706

## 1. 平成20年度の主な事業

現在、昭和学院では、平成22年の完成を目指して、新キャンパス計画の推進に取り組んでいます。

新キャンパス計画は、昭和学院の将来を見据えた大プロジェクトです。

本年4月には、小学校が新しくなり、子どもたちは新校舎で元気に勉強したり、運動したりしています。

中学・高校は、今年末には、1期工事が完成し、高校生が新しい校舎に引越をします。

2期工事は、中学棟、体育館等で、22年完成を目指します。

創立者の伊藤友作先生や二代伊藤一郎先生の偉業を記念して建設を進めています伊藤記念ホールは、来年2月には完成し、入学式、卒業式、講演会、演奏会、授業、講義等、多様な目的に活用いたします。

いままでの小学校新館は、短大図書館としてリニューアルし、本年度中には、完成する予定です。

秀英高等学校は、6階建ての校舎を増築し、物理、生物、化学の特別教室、総合実験室及び階段式のレクチャールームを整備しました。新校舎は、6月に完成し、2学期から供用開始しており、またグラウンドを新たに全面人工芝に模様替えしました。

## 2. 平成19年度計算書類(本学財政の現状について)

平成19年度決算において、基本金組入額33億6百万円は、帰属収入32億6千8百万円を上回っています。この多くは新キャンパス計画進行による固定資産取得に係わる第1号基本金の組入れによるものです。

中長期の教育環境整備計画において、耐震構造検査やアスベスト検査等が行われ、地震による備え、学生・生徒・児童の健康等、より安全や生命に気を配った校舎等の早急な改修や増築が検討されてきました。

計画においては、次代を担う青少年や子供たちが安心して学習できる環境づくりが最優先であるとの経営方針が話し合われました。短大では、直ちに耐震工事が行われ、昭和学院・小中高の校舎他の大規模改修・増築工事にあたっては、より安全面が重視され、更に、緊急を要する建て替え工事として練り直されました。平成20年度完成の秀英中高校舎増築工事も同様です。本年度の基本金組入れ額はその支出額です。ほか、昭和学院幼稚園園舎工事については現在計画中です。

第2号基本金は、本年に続いて平成20年度、平成21年度と、第1号基本金に組入れられます。